

# 平成16年3月期 決算説明会

2004年4月27日

沖電気工業株式会社

## 説明内容

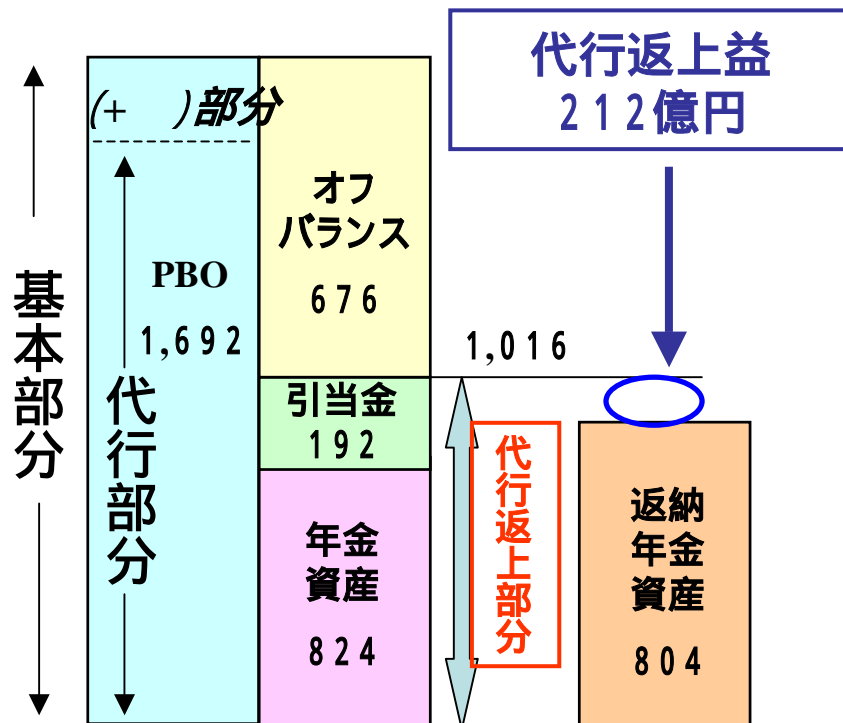
- 代行返上に伴う特別利益の修正について
- 2004年3月期 決算概要について
  - 1-1) P/Lの概要
  - 1-2) B/Sの概要
- 2005年3月期 業績予想について
  - 2-1) 予想の前提とP/L
  - 2-2) セグメント情報
  - 2-3) 設備投資、R&Dの状況
  - 2-4) キャッシュ・フローの状況
  - 2-5) 人員の状況
- 中期経営目標について

本資料における予想、見通し、計画等は、現時点における事業環境に基づくものであり、今後の事業環境の変化により実際の業績が異なる可能性があります。

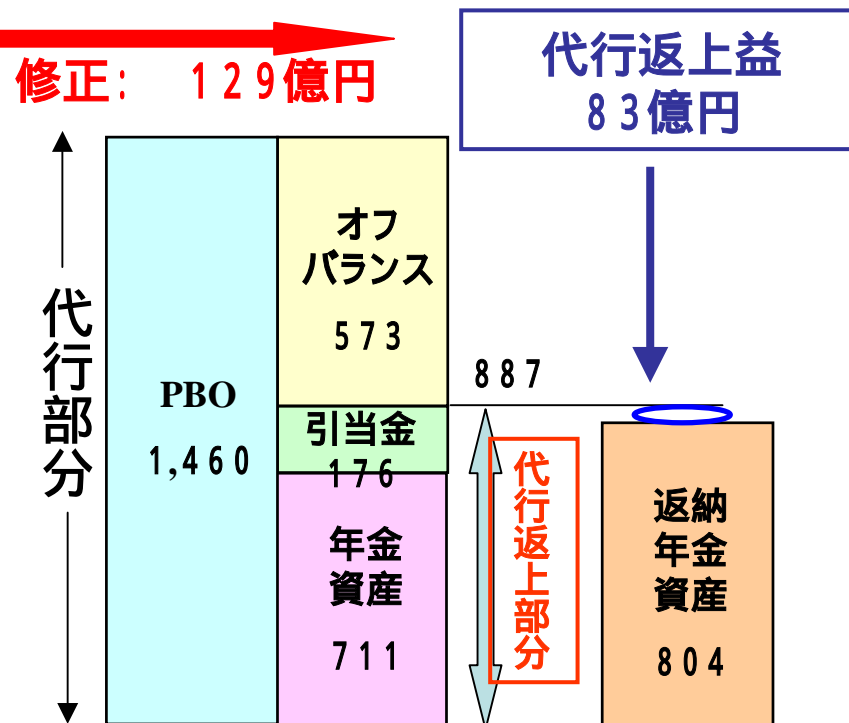
# 平成16年3月期の代行返上益 < 連結 >

4月23日に代行返上に伴う特別利益の修正並びに2004年3月期の業績予想の修正を行いました (単位: 億円)

- 2月24日のファイリング時  
本来代行部分ではない上乗せ部分 (+アルファ) も含めて代行返上として計算したため特別利益を過大に評価



- 今回の見直し  
代行部分のみで計算  
代行返上益は83億円に減少 (129億円)



## 04年3月期 連結決算概要

- 売上高は前期比11.7%増の6,542億円、前回予想対比42億円増加
- 営業利益は上方修正値を達成し、216億円
- 当期純利益は79億円増加し、13億円の黒字に転換
- 株主資本は前期比92億円増加し、株主資本比率は1.8ポイント改善の18.1%
- 有利子負債は前期比440億円減少、有利子負債比率は6.1ポイント改善の47.8%

(金額単位:億円)	03/3期 実績(A)	04/3期 実績(B)	差異 (B - A)	04/3期 1/28 予想(C)	差異 (B - C)
売上高	5,855	<b>6,542</b>	687	6,500	42
営業利益	14	<b>216</b>	202	215	1
当期純利益	66	<b>13</b>	79	45	32
1株当り当期利益(円)	10.72	<b>2.17</b>	12.89	7.35	5.18
総資産	6,229	<b>6,096</b>	133	-	-
株主資本	1,013	<b>1,105</b>	92	-	-
1株当り株主資本(円)	165.63	<b>180.66</b>	15.03	-	-
有利子負債	3,354	<b>2,914</b>	440	-	-

■ 比較連結P/L

(金額単位:億円)

	03/3期	04/3期	差異(増減)
<b>売上高</b>	5,855	<b>6,542</b>	687
(売上原価率)	(76.1%)	(74.1%)	(2.0%良化)
売上原価	4,457	<b>4,845</b>	388
販管費	1,384	<b>1,482</b>	98
<b>営業利益</b>	14	<b>216</b>	202
営業外収支	92	<b>91</b>	1
経常利益	78	<b>125</b>	203
特別利益	212	<b>99</b>	113
特別損失	168	<b>200</b>	32
税引前利益	35	<b>23</b>	58
法人税等	31	<b>10</b>	21
当期純利益	66	<b>13</b>	79

連結売上高

(億円)

	03/3	04/3	差異
情報	3,304	<b>3,603</b>	299
通信	857	<b>1,046</b>	189
デバイス	1,192	<b>1,322</b>	130
その他	502	<b>571</b>	69

連結営業損益

(億円)

	03/3	04/3	差異
情報	198	<b>240</b>	42
通信	82	<b>34</b>	116
デバイス	10	<b>23</b>	33
その他	10	<b>28</b>	18
本社・消去	102	<b>109</b>	7

特別損益の主な内訳

(億円)

	03/3	04/3
有価証券売却益	15	<b>16</b>
固定資産売却益	197	
代行返上益		<b>83</b>
固定資産処分損	11	<b>49</b>
有価証券評価損	72	<b>15</b>
事業再編損	61	<b>77</b>
地震による災害損失	-	<b>33</b>

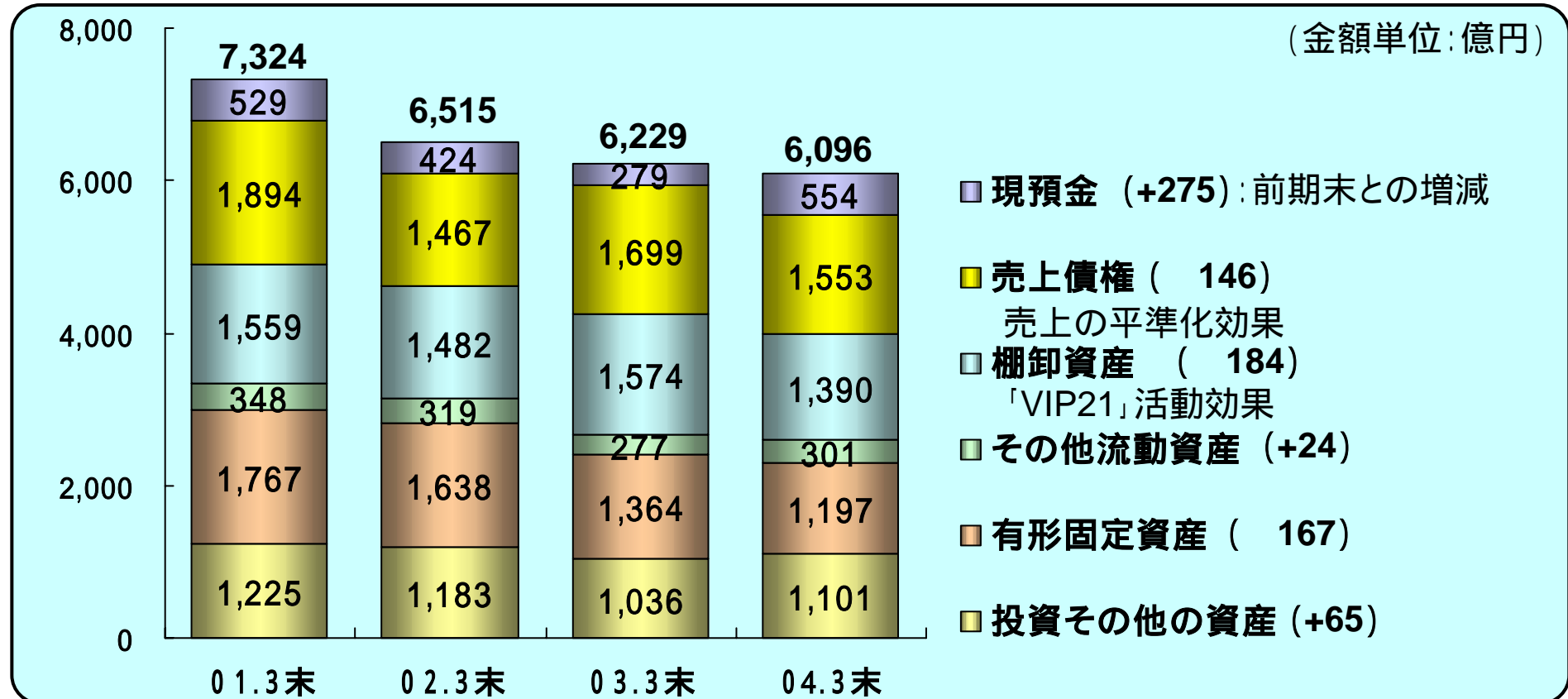
- 棚卸資産圧縮等により資産効率改善
- キャッシュフローの大幅な良化により手元資金が前期比275億円増加

【主な指標】

(単位:回転)

	02/3	03/3	04/3
総資産回転率	0.87	0.92	1.06
棚卸資産回転率	3.98	3.83	4.41
売上債権回転率	3.60	3.70	4.02

【貸借対照表 - 資産の部】



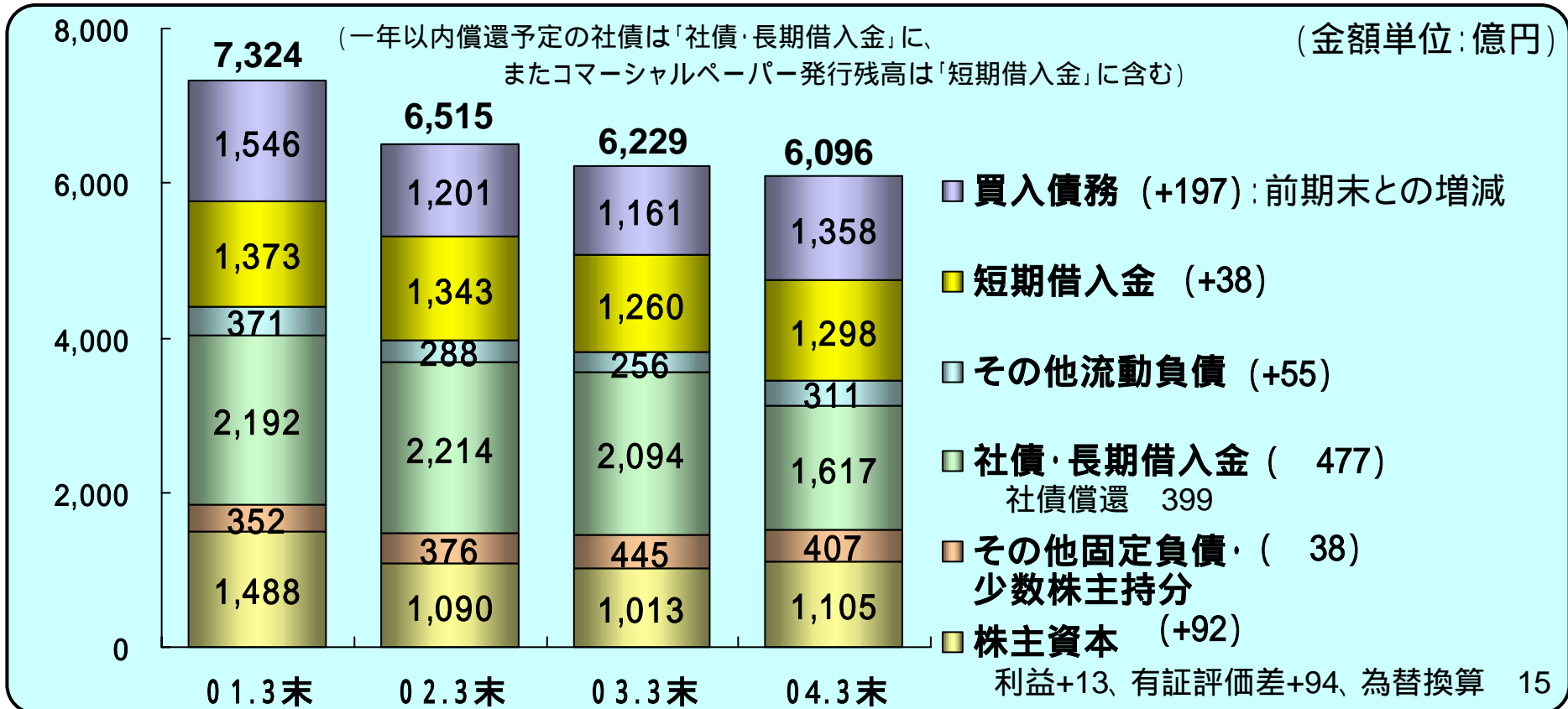
- 有利子負債を440億円圧縮、有利子負債比率は6.1ポイント改善
- 当期利益の黒字化により、株主資本比率は1.8ポイント改善

【主な指標】

(単位:億円・%)

	02/3	03/3	04/3
有利子負債残高	3,558	3,354	<b>2,914</b>
有利子負債比率	54.6	53.9	<b>47.8</b>
株主資本比率	16.7	16.3	<b>18.1</b>

## 【貸借対照表 - 負債・資本の部】



## 【経済環境】

- 米国経済： 堅調な個人消費、設備投資を背景に成長を持続、年度後半は調整局面に
- 欧州経済： 個人消費を中心に緩やかな回復を継続
- アジア経済： 世界的な景気回復、IT投資拡大により中国を中心に成長を継続
- 国内経済： 輸出を牽引とした設備投資の回復により緩やかな成長を持続

## 【市場環境】

- 金融機関： ATMの改造・取替投資から、事務集中・情報通信融合システム投資へ
- 通信キャリア： 光化投資は拡大、地域IP網整備は堅調、サービスの拡充
- 半導体市況： 04年度前半は成長のピーク、年度後半には成長鈍化
- 公共投資： 政府支出はほぼ前年度並み、IT型投資のウェイトは拡大

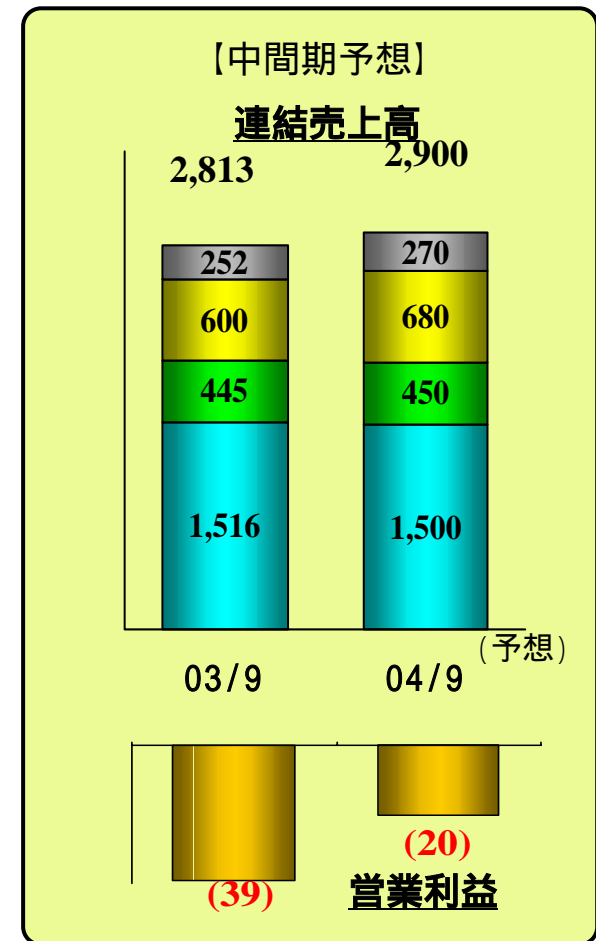
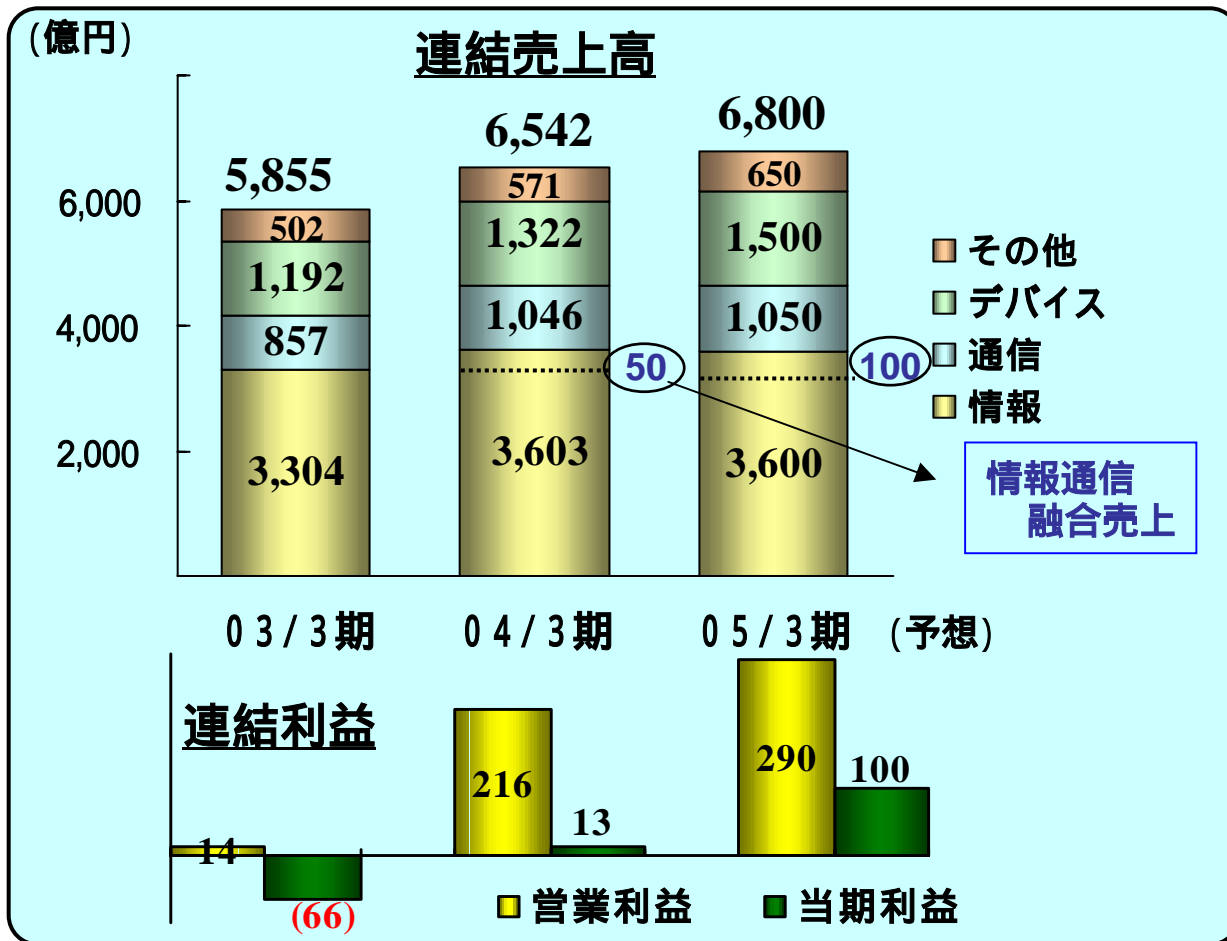
## 【想定為替レート】

	2003年度		2004年度		
	実績レート	外貨建売上高	想定レート	外貨建売上高	為替変動影響 <sup>*</sup>
USドル	113円	6.2億USドル	105円	7.5億USドル	2.5億円/1円
ユーロ	133円	5.5億ユーロ	130円	6.0億ユーロ	2.5億円/1円

\* 為替レートが1円変動することによる営業損益に与える影響(円高は損失)

# 05年3月期 業績予想

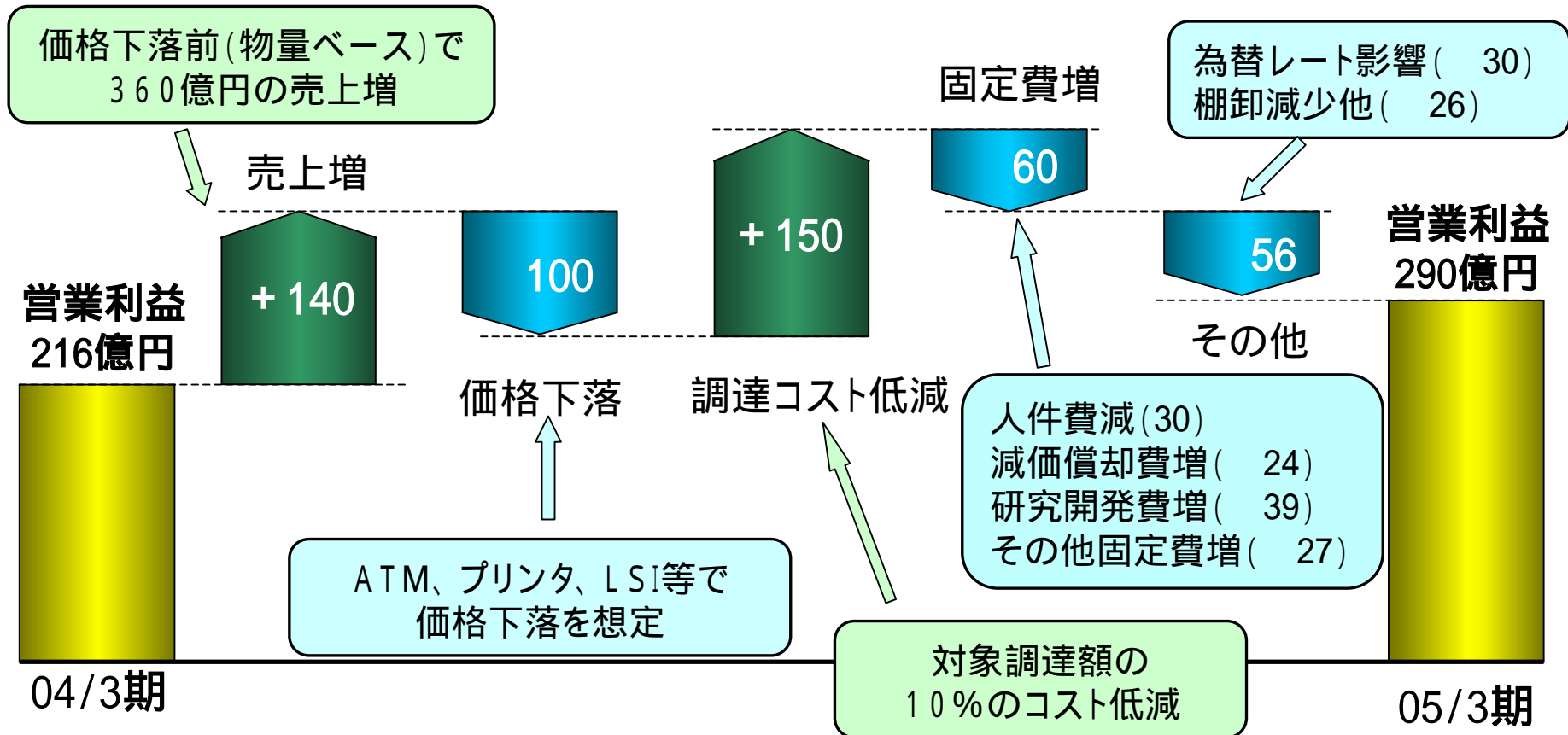
- 売上高は新紙幣対応需要の減少をカラープリンタ、半導体、情報通信融合商品で補い、前期比 258億円増の6,800億円を計画
- 売上増、事業構造改革の成果、調達コストの低減等により営業利益は、前期比74億円増の290億円、当期利益は87億円増の100億円



# 営業利益の変動要因

## 営業利益74億円増益の要因

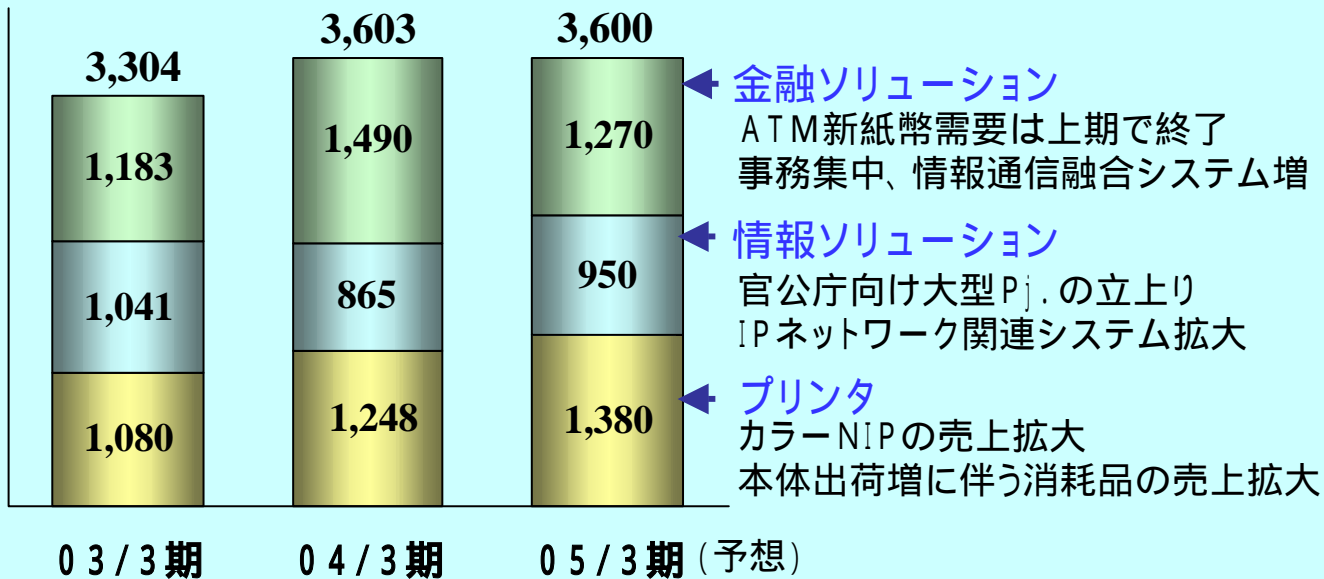
- 売上増、調達コスト低減により、価格下落、円高による減益要因を吸収
- 業績連動による賞与の増加はあるが、人員減および代行返上に伴う退職給付費用減により人件費は30億円減少



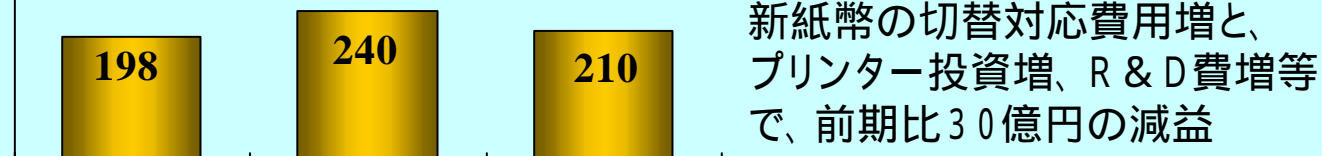
# セグメント情報【情報】

- ほぼ横ばい。新紙幣需要終了による金融ソリューションの売上落ち込みを、カラーNIPの新商品投入、情報ソリューション等によりカバーする。

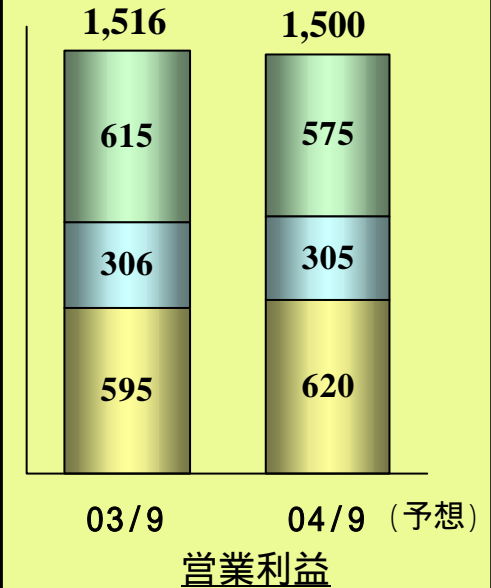
【05/3期通期予想】 外部顧客向け売上高 (金額単位:億円)



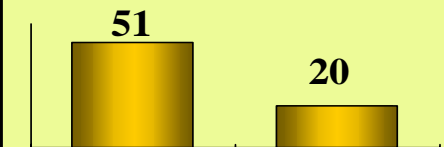
## 営業利益



【中間期予想】  
外部顧客向け売上高

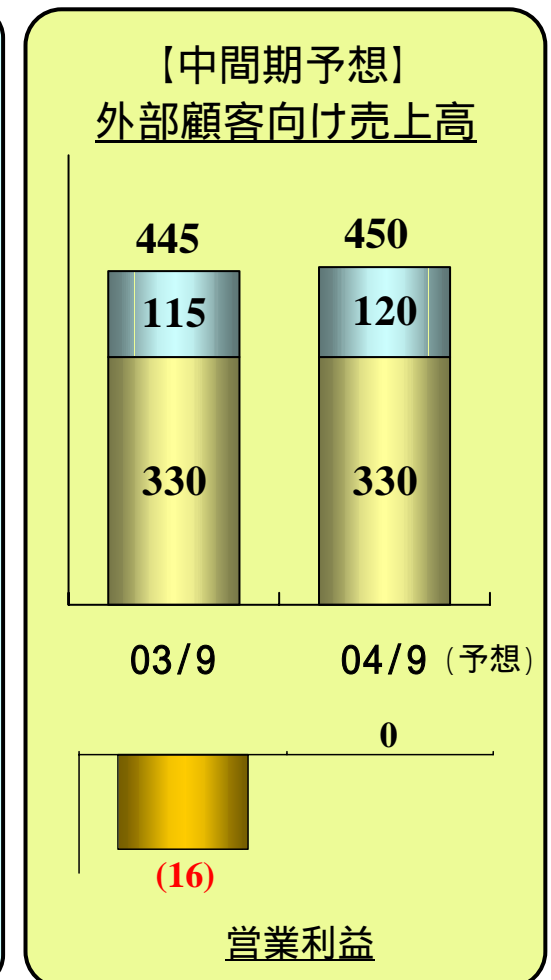
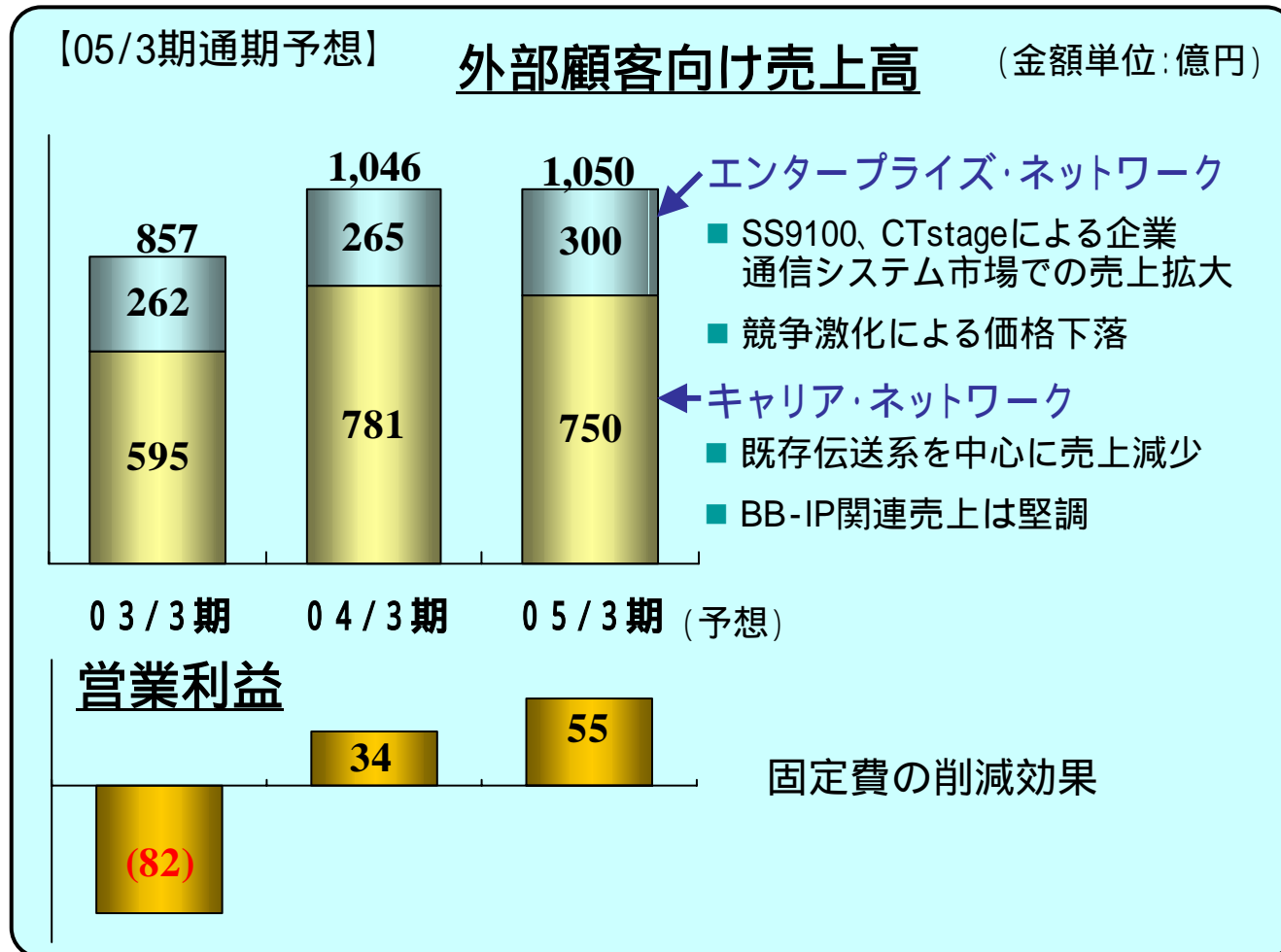


## 営業利益



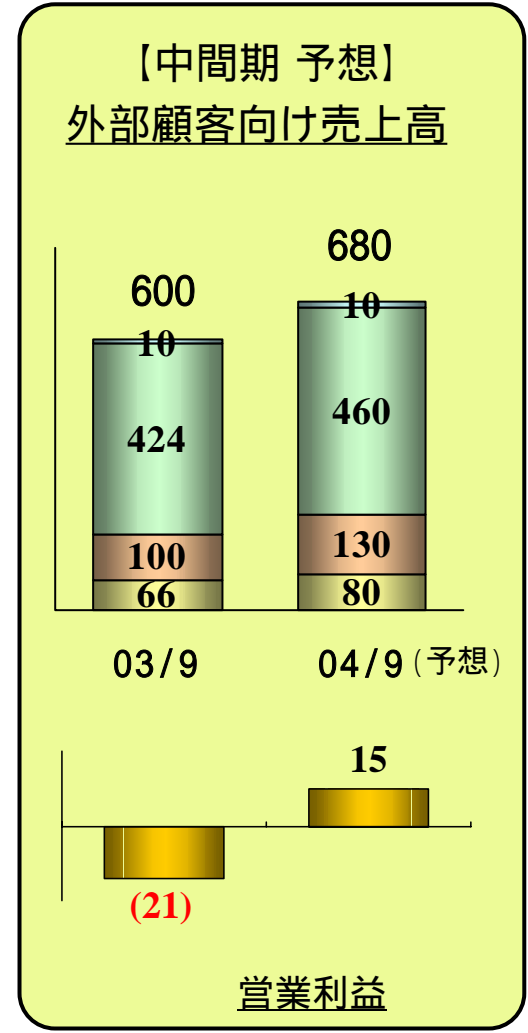
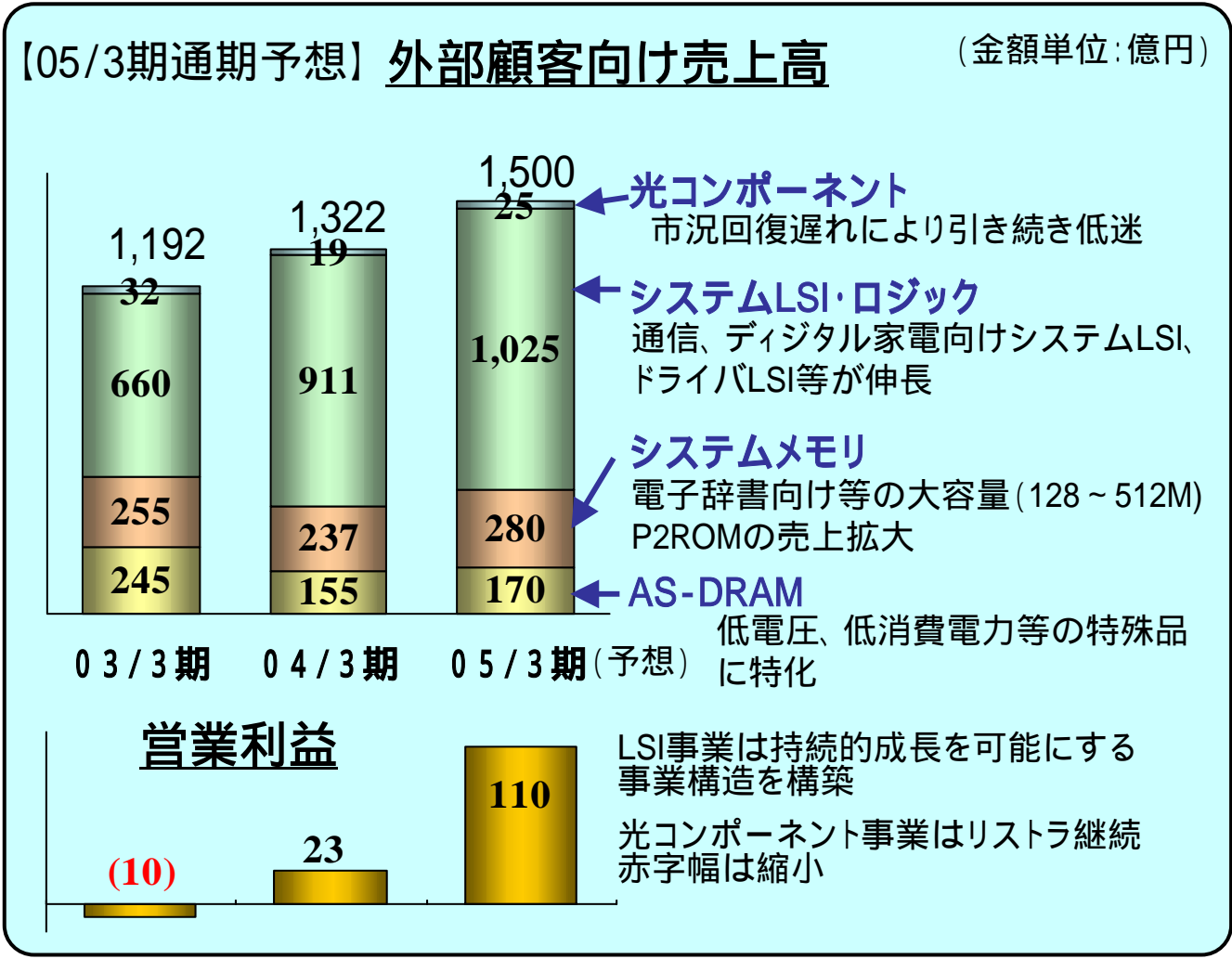
# セグメント情報【通信】

- ほぼ横ばい。メガキャリアの光化投資は拡大、地域IP網整備は堅調。
- 既存伝送系システムの売上減。情報通信融合商品の積極拡販による売上げ増。

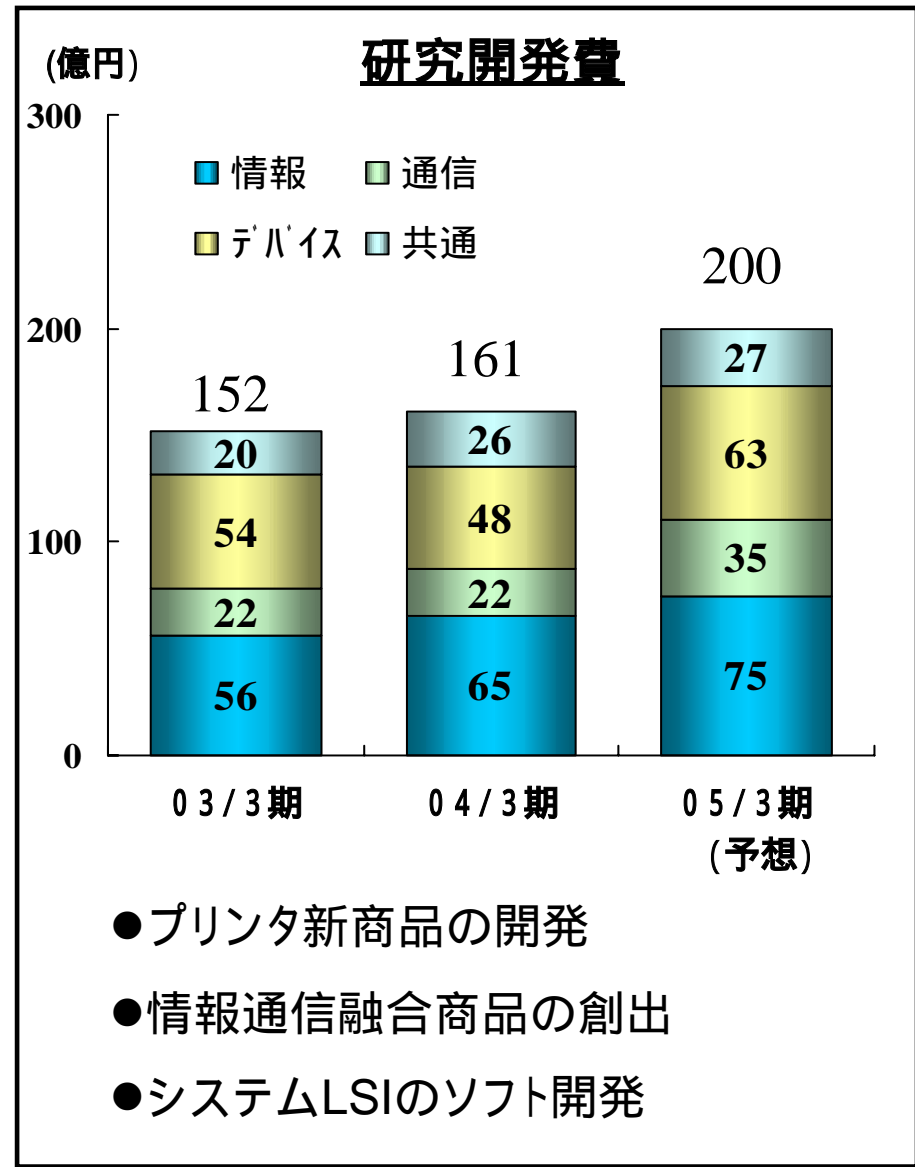
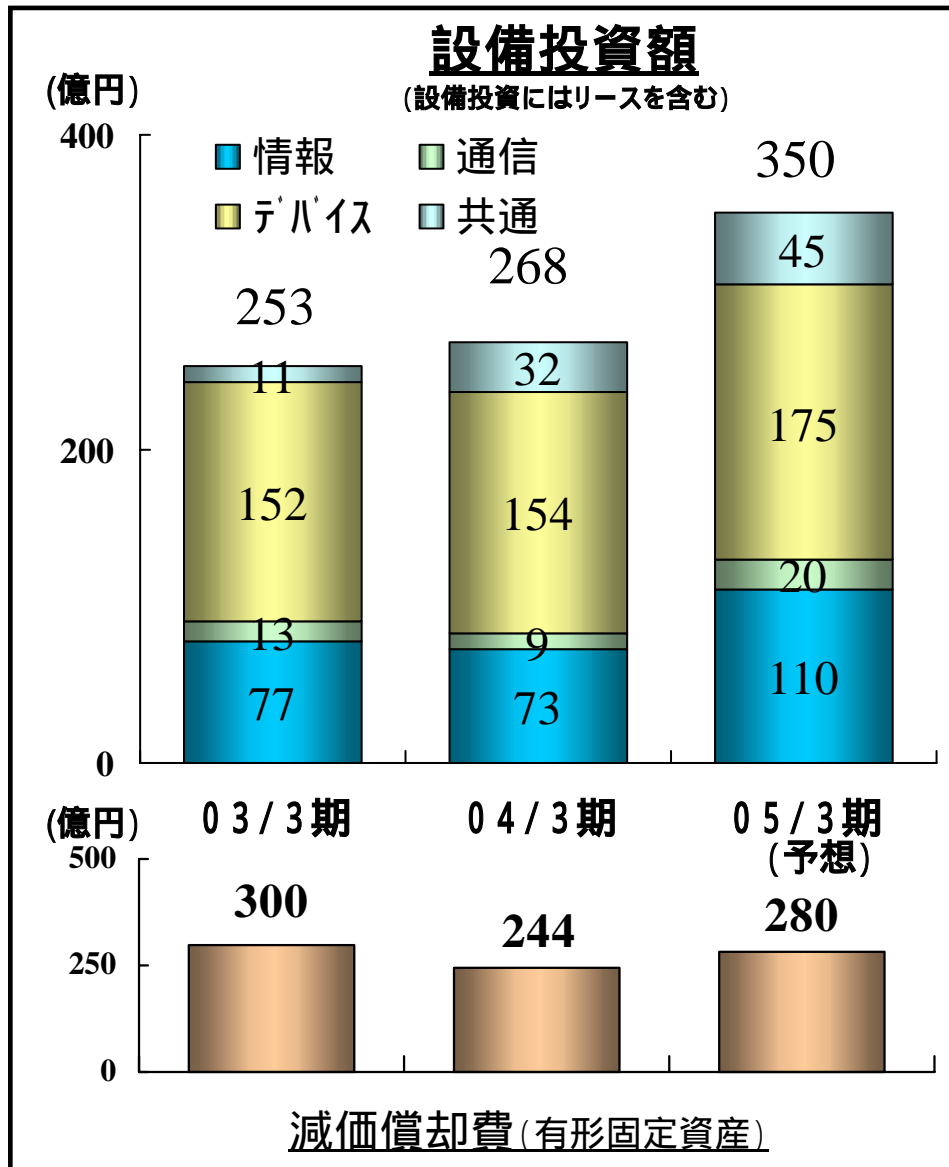


# セグメント情報【デバイス】

- 市場の成長を有効に捉え、「沖らしい半導体事業」の展開で、売上・利益の拡大。
- 売上増に対応したパートナーファブでの生産量確保。



# 設備投資・R & D



# キャッシュフローの状況

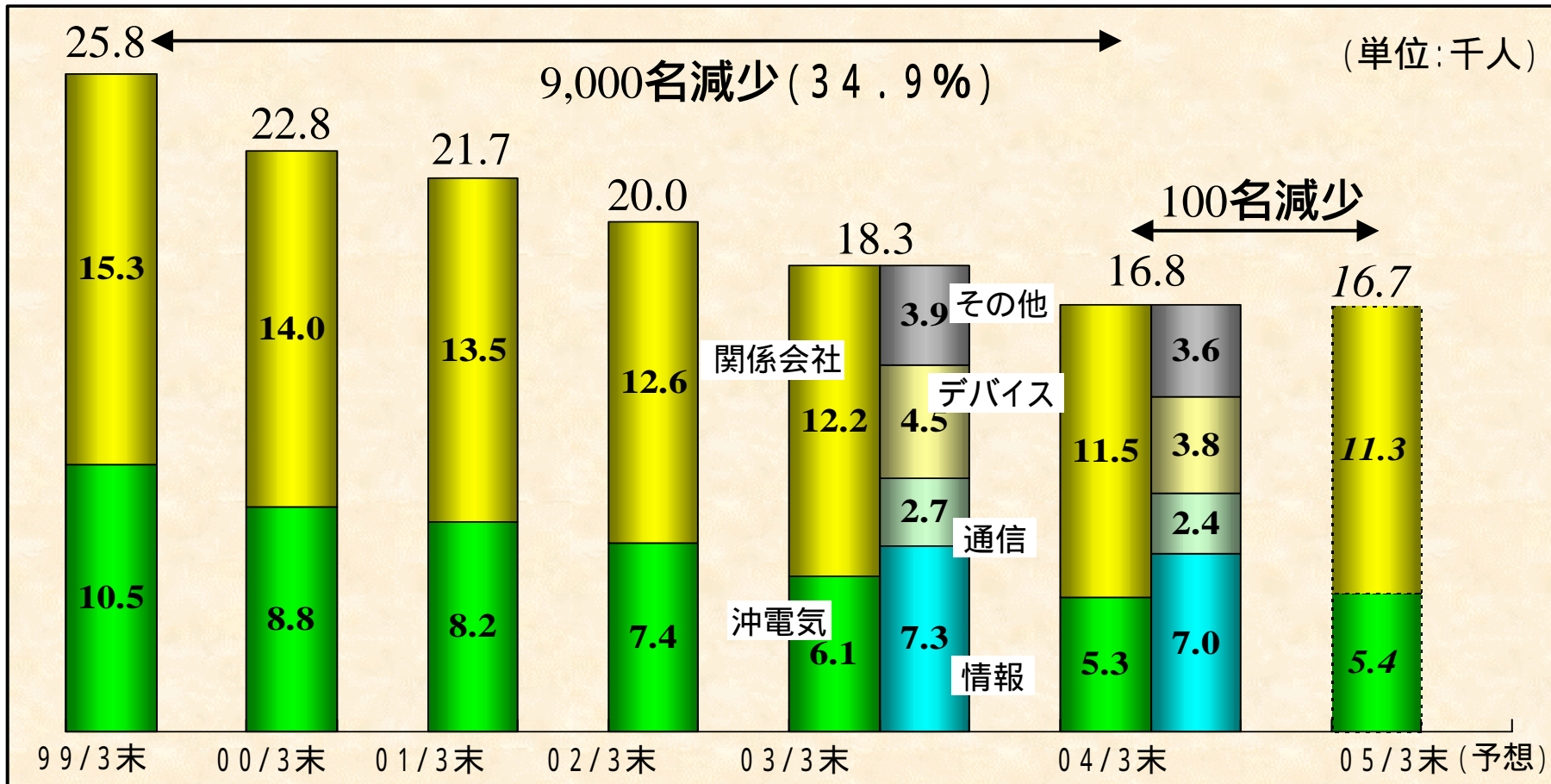
- 04/3期 フリーキャッシュフローは、対前年比686億円良化
- 05/3期 社債償還は手元資金とフリーキャッシュフローで行う予定 (金額単位:億円)

	03/3期	04/3期	05/3期	04/9期	備考
営業キャッシュフロー	2	923	550	80	
税金等調整前当期純利益	35	23	180	80	<b>&lt; 運転資金増減影響内訳 &gt;</b> (*1、*2) (04/3) (05/3) 売上債権 101 170 棚卸資産 171 80 仕入債務 129 90 計 401 0
減価償却費	399	336	360	170	
運転資金の増減	339	(*1) 401	(*2) 0	20	
その他	23	163	10	10	
投資キャッシュフロー	43	192	400	230	
設備投資支払額	235	240	310	150	
その他投資活動	278	48	90	80	
<b>フリーキャッシュフロー( + )</b>	<b>45</b>	<b>731</b>	<b>150</b>	<b>150</b>	
財務キャッシュフロー	201	436	250	130	
社債償還	227	399	150	100	
長短借入金等の増減	26	37	100	30	
<b>キャッシュフロー計( + + )</b>	<b>155</b>	<b>295</b>	<b>100</b>	<b>280</b>	
現金同等物等の期末残高	293	581	481	301	
有利子負債の期末残高	3,354	2,914	2,664	2,784	

# 人員の状況

## 国内従業員数推移 (非連結関係会社を含む)

- 事業環境の変化への対応に向けて、キャリア採用の推進と、人材の適正配置を進める



# 新たなフェーズに向けて

03年度までで、「基盤作り」を完了。新たな「成長フェーズ」へ。  
得意事業分野に注力し、安定収益の継続的確保を目指す

【1999.03 ~ 2004.03】

人員削減: 9,000人 (99.03: 25,800名)

有利子負債圧縮: 1,820億円

LSI事業での開発・設計と生産の分離  
アウトソーシングの拡大(ファブフリー)  
生産構造改革  
・ATM・プリンタの海外生産  
・北関東地区生産拠点の統合

警備機器、放送、医療等  
不採算事業の収束  
東芝ATM事業を譲受  
VoIPでシスコ社と提携

1998

## 1998.9 フェニックス21計画

- ・先端DRAMからの撤退とロジック・システムLSIへのリソース集中
- ・金融ソリューション、VoIP事業強化
- ・コーポレートガバナンスの充実(社外取締役、経営諮問委員)

2000

## 2001.10 フェニックス21飛翔計画

- ・優良成長企業に向けた事業選択と資源集中
- ・ブロードバンドIPネットワーク事業強化

2002

## 2002.9 第3次構造改革

- ・通信システム事業の再編
- ・光コンポーネント事業の再構築

2004 ~ 2006年

2006年度を目標に「ネットワークソリューションの沖電気」を実現する  
情報通信融合事業を柱とし、半導体、プリンター事業を第二、第三の柱に育成する。

### 情報 (FSC・SSC・ODC)

- ◆ FSC: 金融機関の合併対応、新システム切り替え、新券対応で収益拡大。情報通信融合、事務集中システム、アウトソーシング等新事業構造への転換に注力。
- ◆ SSC: 選択と集中がほぼ完了。黒字構造完成。旅客交通、官公庁、自治体等の情報通信融合領域に注力。更なる収益力強化。中国市場注力。
- ◆ ODC: カラーNIPが離陸。今後、世界各国でシェア拡大。SIDMの収益力強化。

### 通信 (NSC・ISC)

- ◆ NSC: 構造改革完了、黒字構造完成。ブロードバンド化への積極対応。情報通信融合領域、アプリケーション・プラットフォームへの積極対応。
- ◆ ISC: 企業システム市場へ情報通信融合商品トップシェア確保。今後、商品の品揃え強化。収益力強化。間接販売チャネル再点検。

### デバイス (SiSC・SiMC・OCC)

- ◆ SiSC: ファブフリー事業モデルの完成。システムLSI事業強化。グループの技術活用による得意事業領域の強化。パーソナル/モバイルに注力。
- ◆ SiMC: 生産量変動に強い事業構造完成。差別化技術(省電力、高耐圧)の徹底強化。
- ◆ OCC: 市場変動に敏感な事業構造の実現。

# 情報通信融合事業を柱に

## ブロードバンドの進展

- 光通信
- xDSL
- 圧縮技術
- 広域イーサ

## インターネット技術の進化

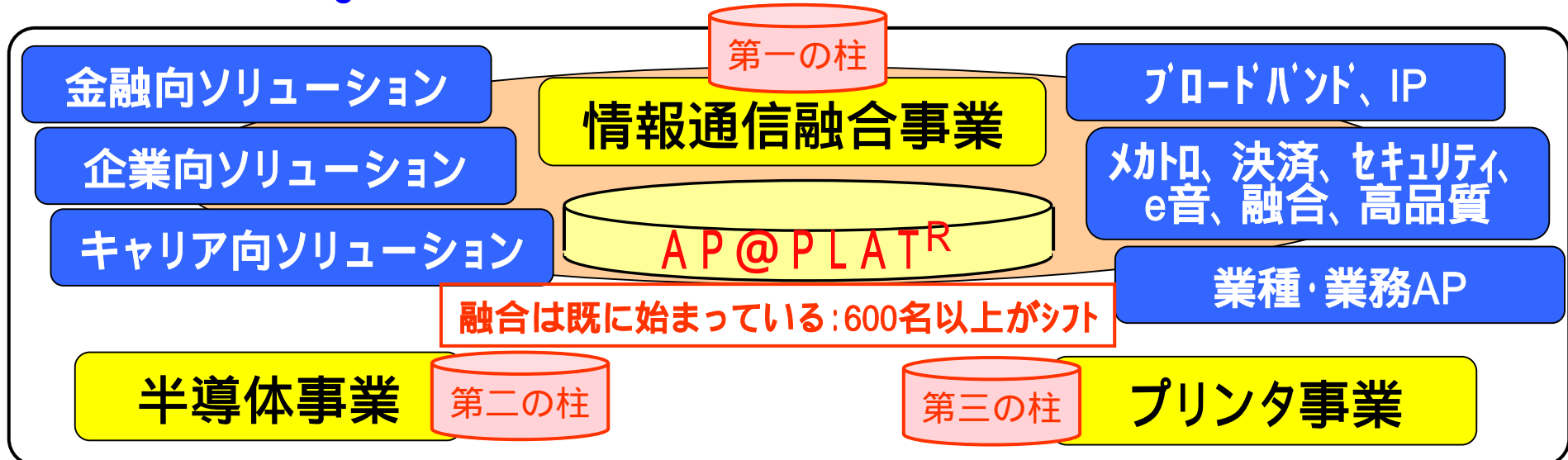
- VoIP
- IPv6
- SIP
- セキュリティ
- 決済

ブロードバンドIPネットワークを介し  
「e社会<sup>R</sup>」の実現が加速

## 情報通信融合事業領域の拡大

「ネットワークソリューションの沖電気」実現

VoIP、CTstage、金融、メカトロ、旅客交通等のトップベンダー実績活用



# 新たなフェーズ: 事業のゴール

## 1. 情報通信融合事業(現FSC、SSC、NSC、ISCが核)

2006年度目標売上高: 金融1500億円以上。企業1500億円以上。  
キャリア1000億円以上。

- ◆ 情報通信融合商品、事業領域の拡大・強化(ワンストップサービスの強化)
- ◆ 市場アクセス力の徹底強化。(営業、SI、APプラットフォーム、業務コンサル等)
- ◆ 決済、セキュリティ、ネットワーク、メカトロ、音、無線などへのこだわり。

## 2. 半導体事業(現SiSC、SiMCが核)

2006年度目標売上高: SiSC, SiMC合計1700億円以上。

- ◆ SiSC : システムLSI中心のファブフリー事業モデルの完成。高収益化。
- ◆ SiMC : 差別化技術による、ファブの競争力向上。

## 3. プリンタ事業(現ODCが核)

2006年度目標売上高: 1800億円以上

- ◆ 圧倒的な性能・コスト・小型の優位性を構築し、カラーNIP市場をリード
- ◆ 売上・収益力を増強し沖の第三の柱を目指す。

# 情報通信融合事業を新たな柱に

## なぜ、今、情報通信融合か

環境：グローバルに本格的ブロードバンド(BB)時代の到来

- 社会・経済・産業の各構造、企業・個人の活動は予想以上のスピードで変化。
- グローバルなネットワークの予想以上の変化の速さに起因。
- グローバルなネットワークは情報通信融合そのものである。
- 情報通信融合の技術・商品・サービス開発の変化は早く、多岐にわたる。

顧客は、情報通信融合を  
企業活動の有効ツールとして  
大いに期待する半面、悩みも深まる

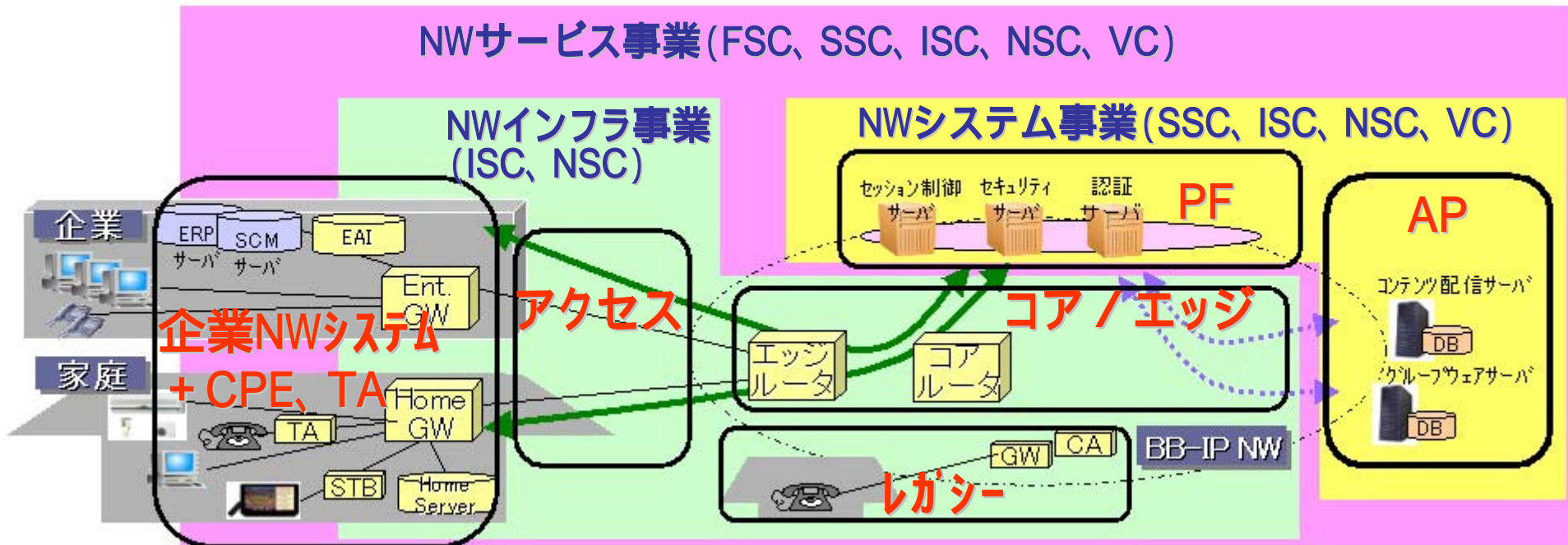
- 各種変化を新しいビジネスチャンスと捉えたい
- 本業の競争力強化に集中したい
- 技術・商品の変化を的確に捉えることは困難
  
- 顧客によって悩みは違う
- ・インフラ中心の顧客：AP等上位移行方法に悩み
- ・情報/AP中心の顧客：インフラの有効活用方法に悩み

解決策：  
インフラと情報/APの  
有機的な有効活用  
即ち、  
情報通信融合ソリューション  
の提供

頼れるベンダーに任せる

# 【情報通信融合事業】NW関連事業領域

BB-IP化の進むNWインフラ事業 をこれからも事業の基盤として強化し、今後急激な市場拡大が見込まれる情報通信融合のNWシステム事業、および新ビジネスモデル提供を含むNWサービス事業を拡大する。



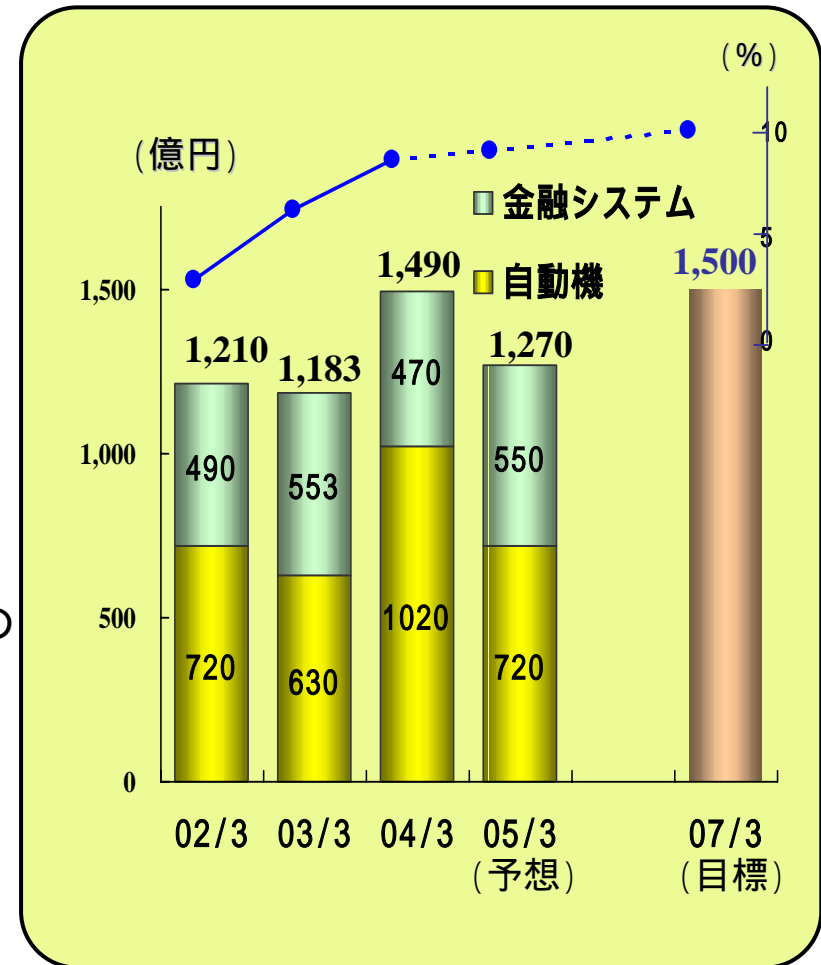
- NWインフラ事業: 顧客のインフラネットワーク高度化に向けて、競争優位の商品を提供する
- NWシステム事業: 顧客の多様なサービス提供を支援するプラットフォーム/アプリケーションを提供する
- NWサービス事業: 顧客のビジネス・業務プロセスを支援する各種サービスを提供する

# 【情報通信融合事業】金融ソリューション

- 新紙幣対応需要は04/上期で終了、新紙幣の切替対応費用の増加と、新事業戦略対応のR & Dの増加により収益悪化
- ソリューションビジネスの拡大およびATM新市場への展開に注力

## 【事業戦略】

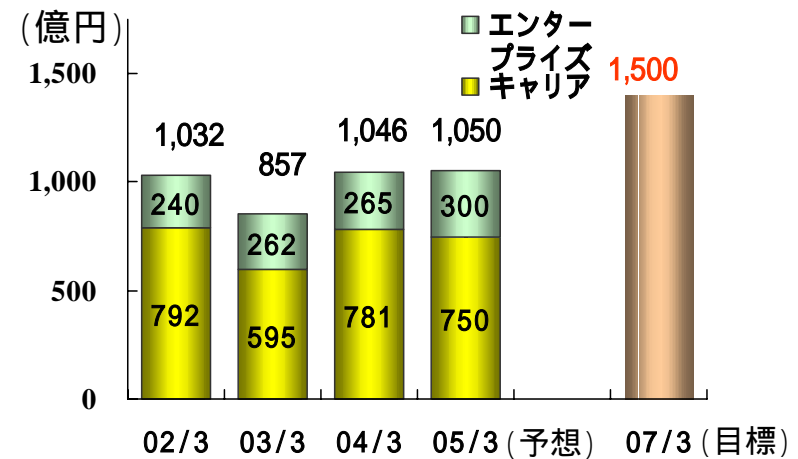
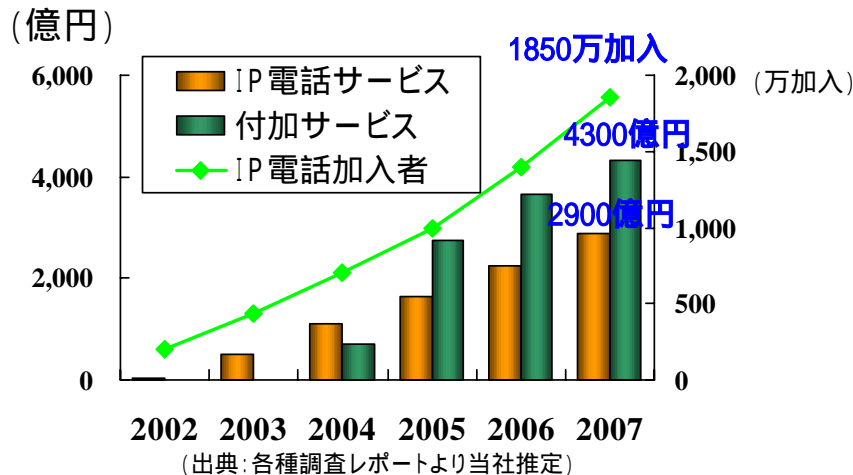
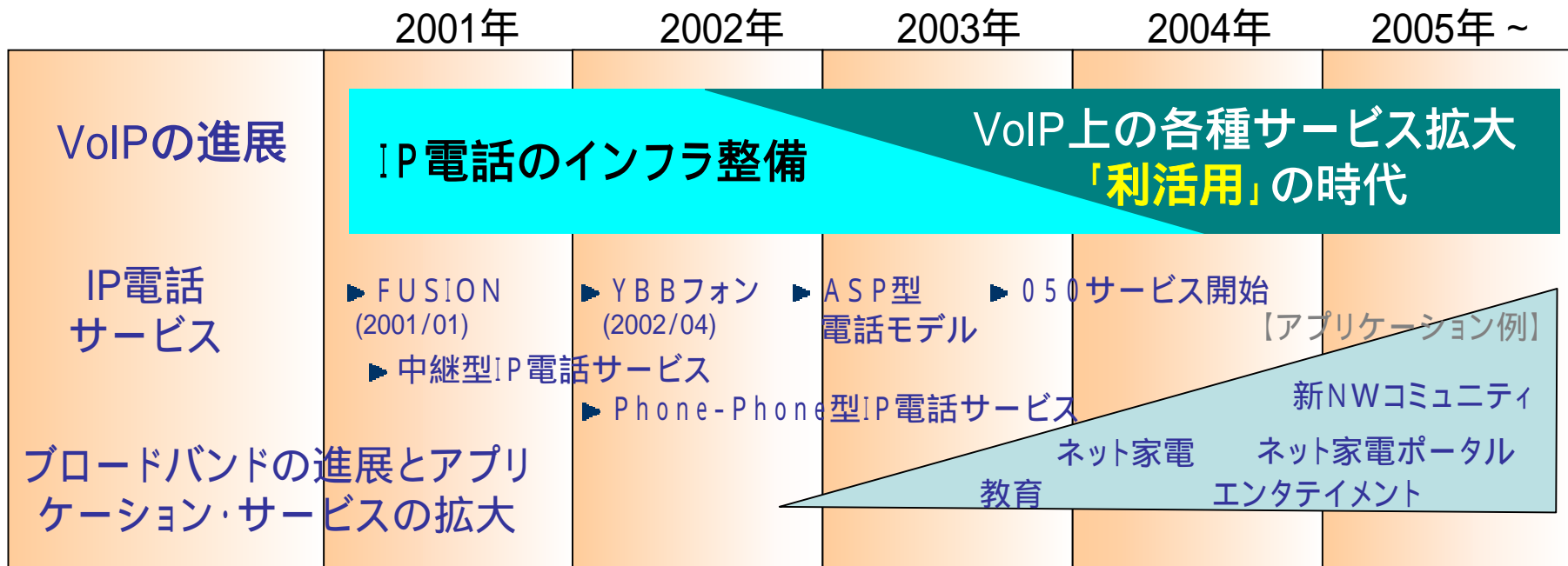
- **事務集中システムの売上拡大**  
金融機関の再編・統合およびリストラの進行に伴い、バック・オフィスでの事務集中システムの需要急増  
国内トップシェアを背景に売上拡大
- **金融ITソリューションへの注力**  
ワンストップソリューション型のITシステム投資へ  
情報通信融合によるITソリューションの提供
- **金融以外の業種へのATM事業の拡大**  
多機能ATM・発券端末を流通、旅客交通等、金融以外の業種に向けて拡販
- **海外市場向けATM事業の展開**  
今後成長が期待される中国市場に専用ATMを投入  
05年度目標シェア30%(台数ベース)



\* 事務集中システム・・・為替システム、印鑑照合、本人確認等

# 【情報通信融合事業】NWシステム、NWサービスへ

## VoIPはインフラ整備から「利活用」の時代へ

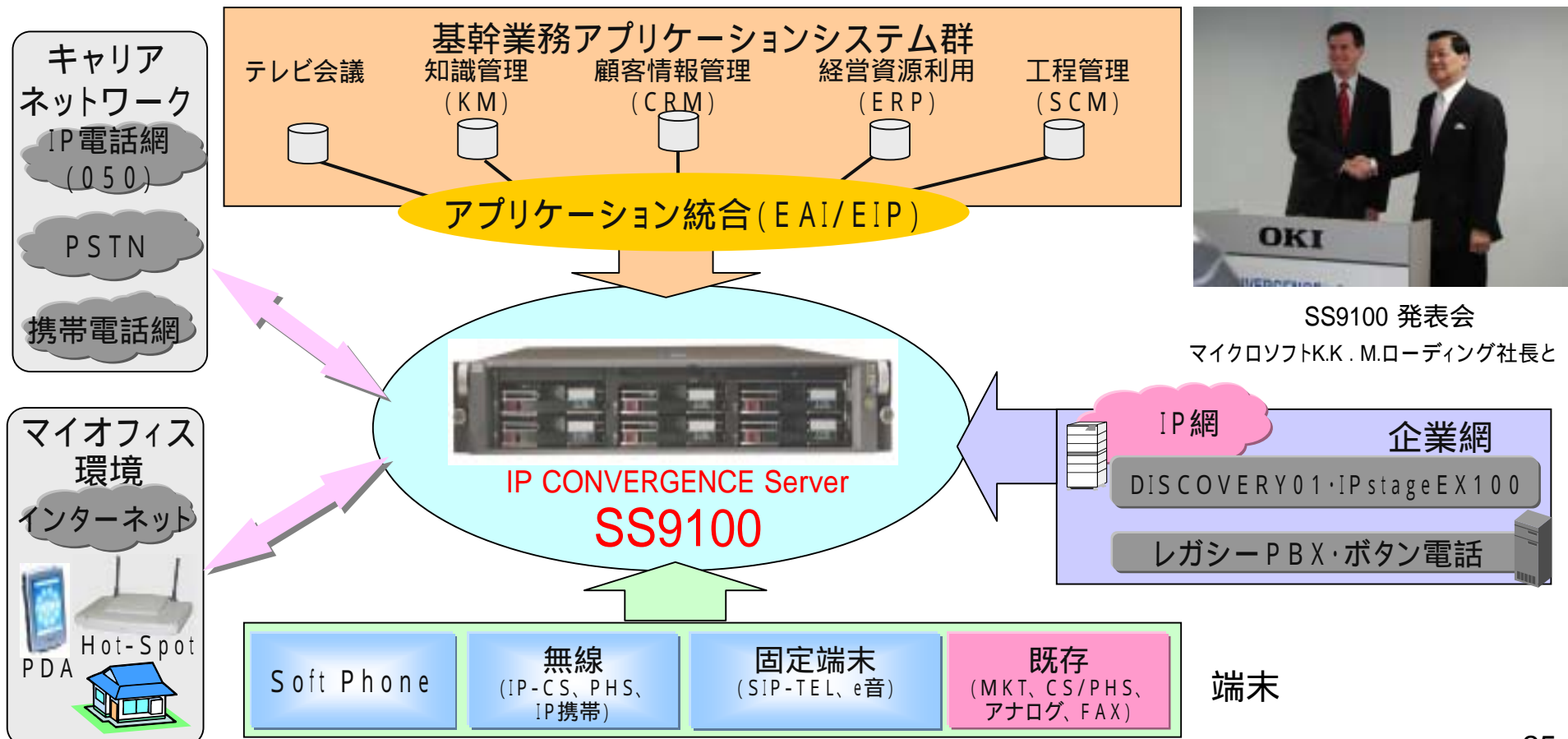


# 【情報通信融合事業】企業NWシステム

## 情報通信融合ソリューションの提供

SS9100を中核に企業の通信インフラ、業務アプリケーションの提供を通じてビジネスプロセスの改革を提案する

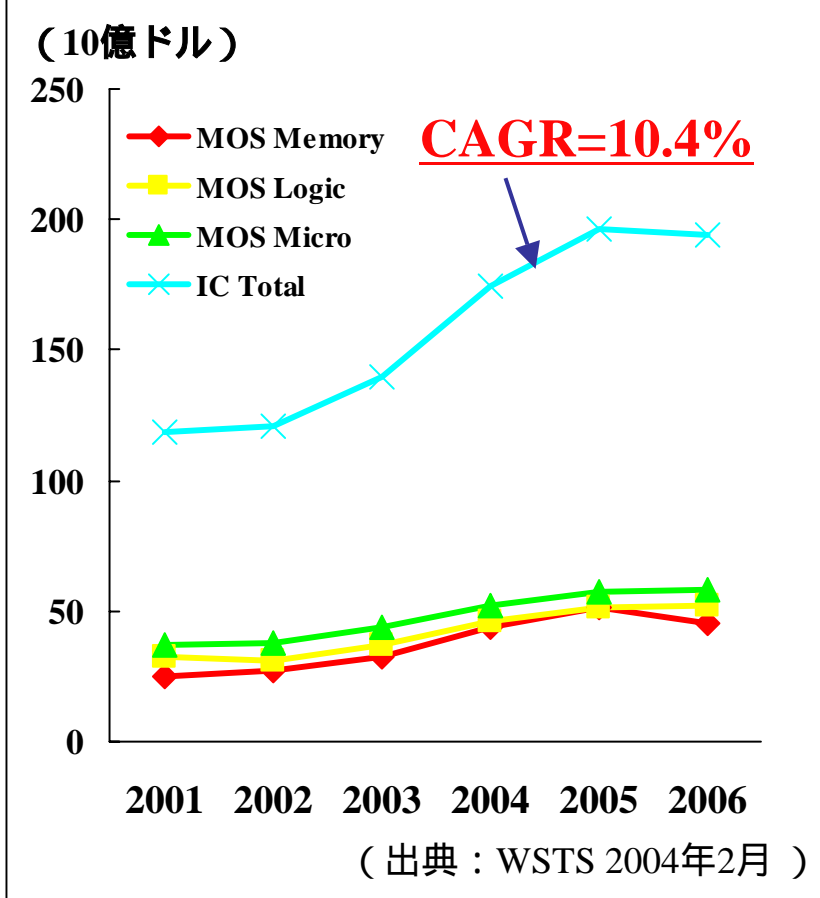
Microsoft .NET上で大規模IP-PBX機能と基幹業務アプリケーションを融合



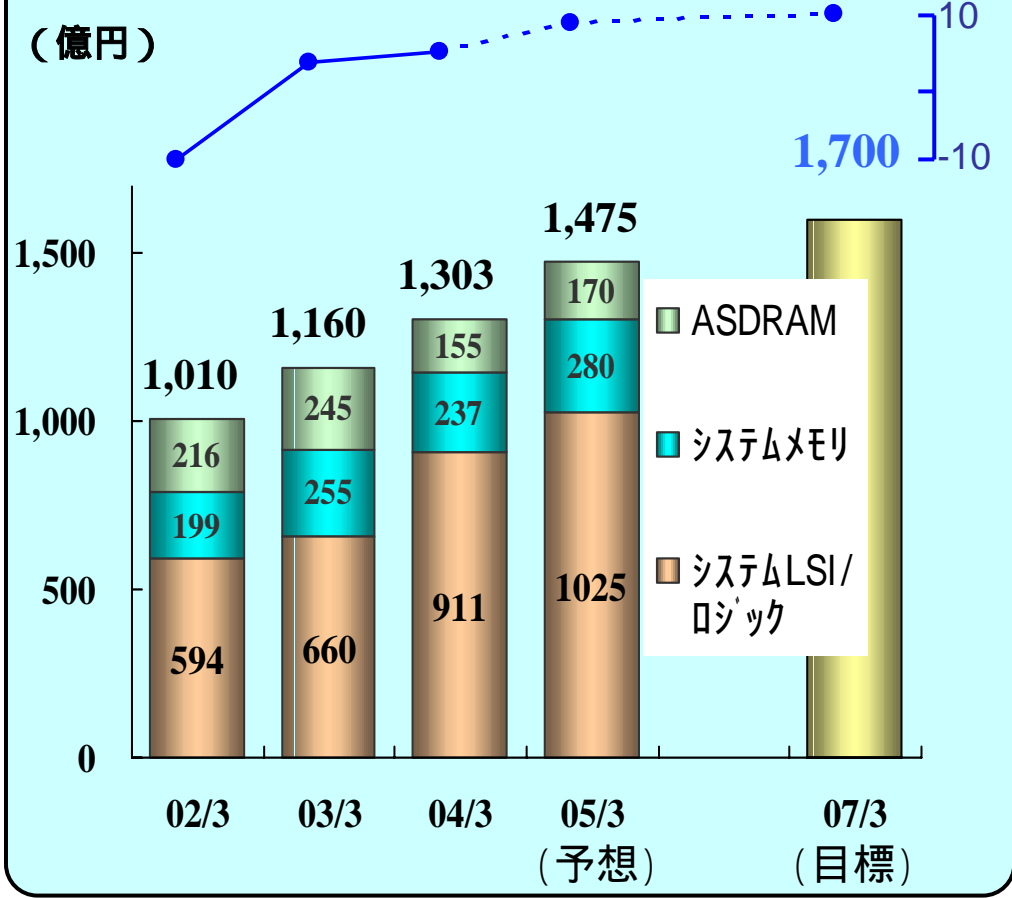
SS9100 発表会  
 マイクロソフトK.K. M.ローディング社長と

- システムLSI、システムメモリに注力し、世界のLSI市場成長率以上の売上伸長を目指す CAGR 11%

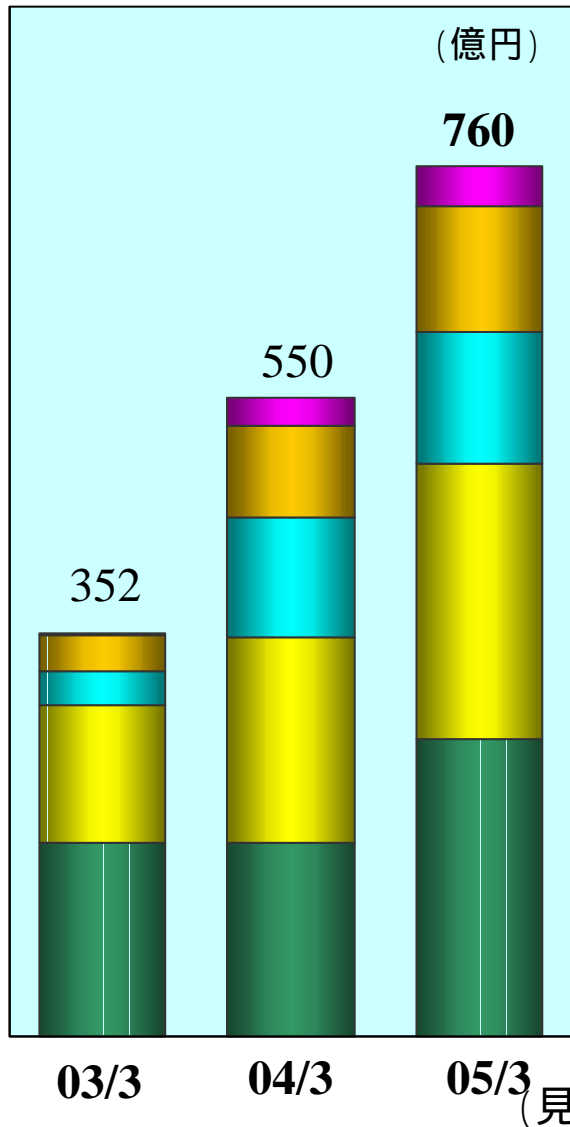
**世界のLSI市場予測**



**目標売上高**



**沖の特色あるLSI群**



**事業施策**

- VoIP/無線    ADSLモデム、TA/電話端末向商品を拡充  
PAN (Personal Area Network) 市場にフォーカス  
ZigBee、RF、無線LAN、GPS

---

- PHS用LSI    中国、台湾市場でのシェア拡大(現状 30%)  
中国以外の市場にも拡販  
世界のPHS-LSI市場のトップシェアを目指す

---

- 音源LSI    高音質、W-CSP、標準フォーマット等の強みを  
生かしGSM市場でのシェア拡大(現状 50%)  
低コスト～高付加価値の商品ラインアップ充実

---

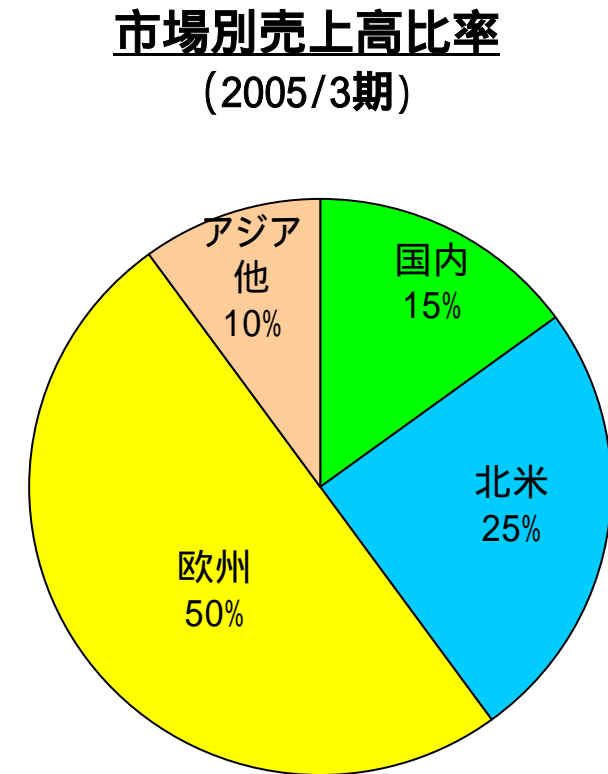
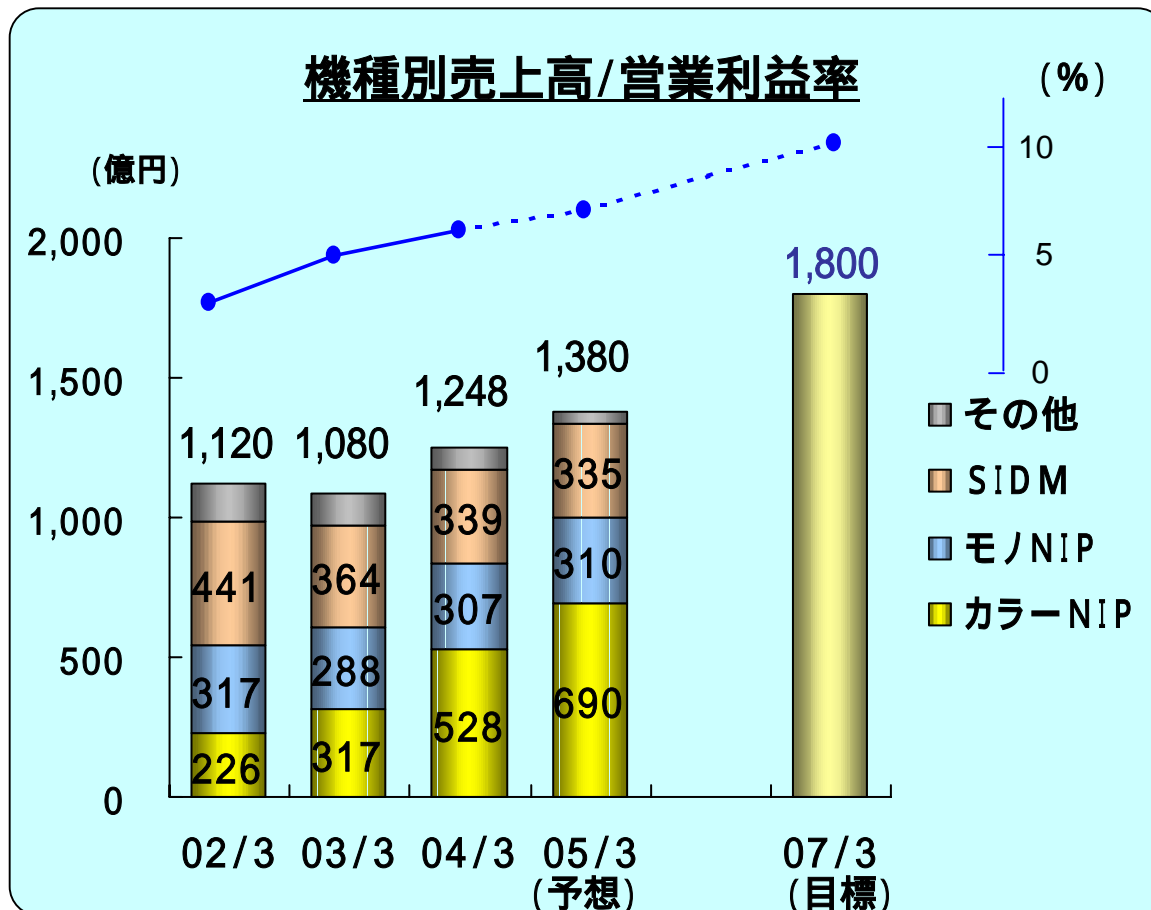
- ドライバLSI    急成長する液晶TV向けで世界トップシェア確保、  
大型PCモニター用のコストダウンで収益力強化  
携帯、デジカメ、車載、有機EL等の商品拡充

---

- P2ROM    短TAT、低コストの強みを生かし  
電子辞書・ゲーム・プリンター等の市場  
でのシェア拡大(現状ROM市場の30%)  
次世代大容量P2ROM(512M～)開発加速

# 【プリンタ事業】事業目標

- カラーNIPはLED光源方式による高速・高解像度カラー印刷、小型・軽量化の優位性を活かし、2006年世界マーケットシェア20%以上を目指す
- SIDMは北米トップシェアの維持、中国市場の拡販により収益の最大化を図る



# 【プリンタ事業】事業領域

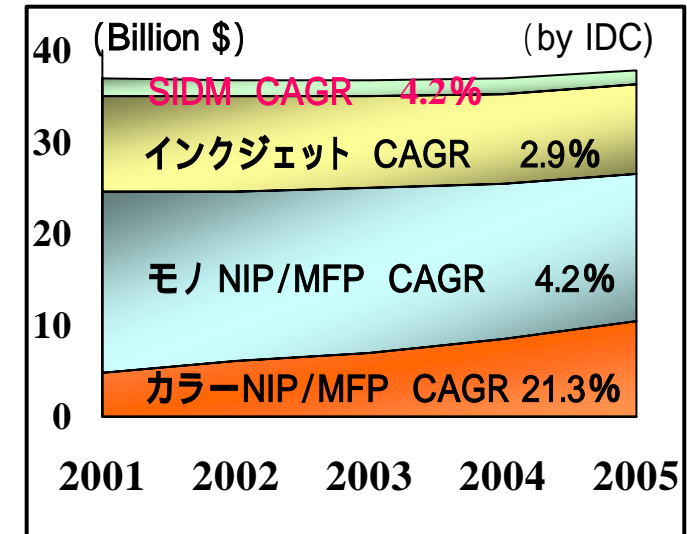
- カラーNIP/MFPは年率20%以上の成長
- SIDM市場は特定業務を中心に安定

## 【事業戦略】

- LEDの優位性を生かし、カラーNIP市場に注力
- モノNIPのカラーNIPへの置換を着実にフォロー
- SIDMはコストダウンと中国市場への注力により収益の最大化を狙う

## 【沖の事業領域】

プリンタ市場動向(本体出荷高)



用途		市場価格			
		\$ 100	\$ 1K	\$ 10K	\$ 100K
ビジネス	商用印刷				大型レーザー他
	インハウスプリント				
	グラフィックデザイン		インクジェット		
	一般企業・SOHO		モノNIP	カラーNIP	ワークグループMFP
	特定業務	サーマル	SIDM	ラインプリンタ	
コンシューマ			インクジェット		

NIP: Non Impact Printer MFP: Multi Function Printer LED: Light Emitting Diode SIDM: Serial Impact Dot Matrix Printer

日米欧にて  
4月発売!



同一価格帯

**OKI: C5200**



印刷スピード カラー / モノクロ	16ppm / 24ppm
価格	\$ 799
容量	425 x 561 x 345
重量	25kg
解像度	600 x 600 dpi



カラー印刷スピードは同じ

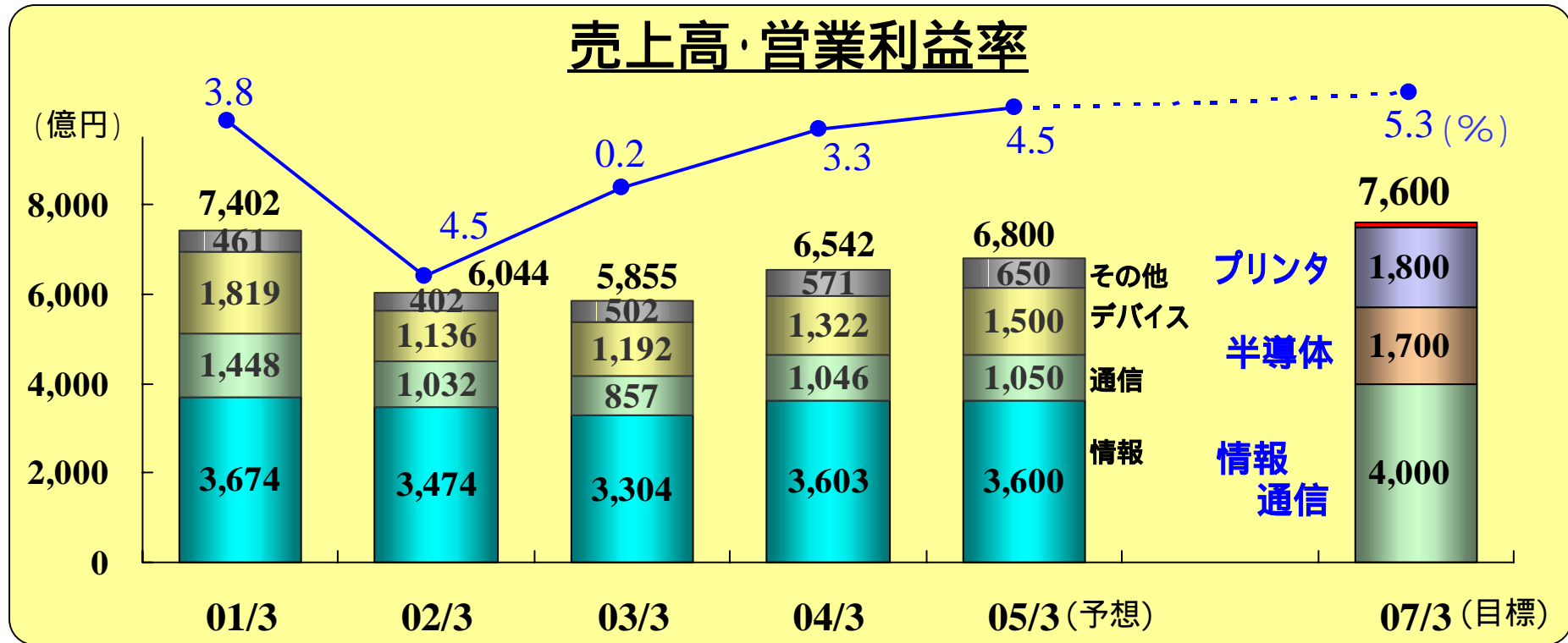
**競合機種**

印刷スピード カラー / モノクロ	12ppm / 12ppm
価格	\$ 799
容量	500 x 447 x 467
重量	33kg
解像度	600 x 600 dpi

**競合機種**

印刷スピード カラー / モノクロ	16ppm / 16ppm
価格	\$ 1,299
容量	500 x 447 x 467
重量	34kg
解像度	600 x 600 dpi

# 中期経営目標



	2003/3実績	2004/3実績	2005/3予想	2007/3目標
売上高	5,855億円	6,542億円	6,800億円	7,600億円
営業利益	14億円	216億円	290億円	400億円以上
当期純利益	66億円	13億円	100億円	200億円以上
ROE	-	1.2%	8.3%	15%以上
D / E レシオ	3.3倍	2.6倍	2.2倍	1.5倍以下

P8	IT	Information Technology	P27	ADSL	Asymmetric Digital Subscriber Line
	ATM	Automated Teller Machine		TA	Terminal Adapter
	IP	Internet Protocol		PAN	Personal Area Network
P10	LSI	Large Scale Integration		RF	Radio Frequency
P11	LED	Light Emitting Diode		LAN	Local Area Network
	NIP	Non-Impact Printer		GPS	Global Positioning System
	Pj.	Project		PHS	Personal Handy-phone System
	ITS	Intelligent Transport Systems		W-CSP	Wafer level Chip Size Package
P12	BB	Broadband		GSM	Global System for Mobile Communications
P17	VoIP	Voice over Internet Protocol		EL	Electro-Luminescence
	NW	Network		TAT	Turn Around Time
P19	xDSL	Digital Subscriber Line(総称)		ROM	Read Only Memory
	IPv6	Internet Protocol Version 6		P2ROM	Production Programmed Read Only Memory
	SIP	Session Initiation Protocol			
P25	PSTN	Public Switched Telephone Network	P28	SIDM	Serial Impact Dot Matrix
	KM	Knowledge Management	P31	ROE	Return on Equity
	CRM	Customer Relationship Management		D/E	Debt to Equity (ratio)
	ERP	Enterprise Resource Planning			
	SCM	Supply Chain Management			
P26	AS-DRAM	Application Specific Dynamic Random Access Memory			

本資料における予想、見通し、計画等は、現時点における事業環境に基づくものであり、今後の事業環境の変化により実際の業績が異なる可能性があります。